



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

# 園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.3月号

## 歩みを支えるもの

1年がこんなに早く過ぎていってしまうとは・・・

ついこの間のことです。春、たんば組の子どもたちはトイレもままならなかったのです。ばら組は年少時代の天真爛漫(?)な姿そのままに進級していました。うちゅう組、**年長**とはまだまだ名ばかりで・・・。そんな子どもたちでしたが、今、卒業・進級を目前にしてたくさんの成長を数えることができます。たんば組はなんといっても自立への一步を踏み出したこと。名残り惜しいかもしれませんが、母や父の手を離れ、自分たちの仲間と作り出す世界を楽しみ始めています。ばら組は成長と共に人の目が気になるようになり、一方で仲間との係わりが広がり深まっています。そこでは当然のことですがトラブルも多発しています。でも楽しいことを作り出すパワーも満ち溢れています。うちゅう組は幼稚園中のことが視界にはいるようになり、自分たちだけではないということを実感して生活する姿を見せてくれています。うちゅう組だけではなく、幼稚園中のみんなを仲間として受け入れ、困った時には助けてくれる、楽しいことは分けてくれる頼りになる存在です。春になったら彼らはいないのかと思うとちょっと心細くなります。こうしてひとりひとりの歩みを振り返れば、どの子も大きくなっているのです。(親はいつも欲張りですから、あーまだこんなことも出来ないで成長を喜ぶことを忘れてしまいがちですが)

時間はかかっても自分でやろうとする意欲、自分の気持ちを言葉にして伝える姿勢、相手の言葉に耳を傾け気持ちに寄り添うということ、諦めずにやってみようとする力、自ら選び自ら考え自ら行動すること、1人ではなく人の中で自分があることを嬉しいと感じ、生き生きと満足して過ごす姿・・・

嬉しい育ちは書ききれないほどです。そしてこれらの育ちこそが、私たちが子どもたちに願ってきたことのひとつひとつです。毎日の生活の中で、子どもたち同士が「そんな君が好きだよ、大切なんだ」ということを伝えてくれました。私たち保育者もそう伝え続けてきました。きっとお家でも「大好きだよ!」と、たとえば言葉にはならなくともそのメッセージは伝え続けられていたはず。私は受け入れられている、わたしであることを認められている、わたしはわたしであっていい。この自己肯定感があればこそ、子どもたちは自信を持って安心して踏み出していくことができる。たとえ失敗しても挫けてしまうことがあっても、そんな自分を「それでもいいよ、好きだよ」と言ってもらえたら、また一步、進んでみようかなと思える。先に書いた嬉しい育ちの数々は、この歩みの先に見えてくる。

2日前、テレビの短い特集番組は10代の精神疾患患者の増加を取り上げていました。日本の若年層の自殺者数は諸外国の中でもトップ。もっと驚いたことには、中学生・高校生の中で自傷行為を経験したことがあると答えた割合は、7～8%。100人の中高生の中の7、8人が何らかの理由で自分の体を傷つけている、そんなことになっているなんて・・・知らぬは親ばかりか・・・。それに比べて、そりゃいいことばかりじゃなかったけれど、青春真っただ中だった自分のお気楽とも思えるような学生時代を思い返していました。30年の間に何が起きているのでしょうか。大人たちが振り向いて真剣に考えなくてはいけないはずなのに。一見豊かなこの国は子どもたちの心が飢え渴いていることに気づかずに、今日も走り続けているようです。リストカットを繰り返し入院している少女に看護師が「僕は君に生きていてほしいよ。」と繰り返し語りかけていました。なぜ、こんなに追い詰められるまで誰も彼女に「あなたはあなたのままでいい」「好きだよ」というメッセージを伝えてあげられなかったのでしょうか。辛く苦しい現実でした。

4月になれば更に広い空へ旅立つうちゅう組です。いろいろな出来事・いろいろな人々に出会っていくことでしょう。楽しいことばかりじゃない、もうだめだと思うことにだって立ち向かわなきゃならない。もうこの先は親の出でいく幕じゃない。私たちに出来ることは子どもたちの心が渴いてしまわないように、「あなたはあなたのままでいい。大好きだよ!」というメッセージを送り続けること。「わたしは愛されている」「わたしでいい」という確信はこの先の人生を歩いていく大事な支えになってくれと信じています。